

先日、幼稚園の保護者の前で30分もの間、話す機会をいただいた。中身は自己紹介である。我が人生最長の自己紹介となった。己の子育てを振り返りながら、我が教員人生について改めて考えることができた。

本日は、小学校と中学校の先生方を前に話す機会を得た。このようなことは、今までもあったし、現在でもある。時間は20分から30分というケースが多い。今回はというと、110分間も話すことができる。こんなに長く話すことができるのは久しぶりである。

以前、約3時間の枠を担当したことが何度かあった。ただし、演習を含めての時間である。今回のように、講義だけで110分というのは初めてかもしれない。110分というと、50分話して、10分休憩する。そしてまた50分というのが基本パターンになるだろうか。学校の先生は、1コマ45分から50分に頭も体も慣れている。大学の講義が90分ということを見ると、多少無理はあるが、110分ノンストップというのも可能ではある。それだけ魅力のある話ができればのことだが。

講義のタイトルを、「読解力が子どもを救う！」とした。子どもたちが、実は教科書を読めない、内容を理解することができていないことが明らかとなった。読解力が足りないのである。この現状を打破するために、「リーディングスキル」という汎用的な基礎的読解力を基に、先生方の授業を変えていきましょうという話である。先生方に、子どもたちを救ってくださいという訴えである。

参加者は、リーディングスキルのことをほとんど知らない先生から、すでにリーディングスキルを取り入れた授業を展開している先生まで、様々であることが予想される。話というのは、とりわけ相手意識が重要である。参加者すべてを網羅できるようにと資料を作成した。そのために、ここ数年間蓄積してきたリーディングスキルに関する資料をすべて読み直した。最新の情報も入手した。

これらを先生方のニーズに合わせて取捨選択し、翻訳していく。むずかしいことをむずかしくそのまま伝えるのは簡単である。しかし、それでは理解してもらえない。いかに、むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく伝えられるかである。言葉を選ばなくてはならない。そして、先生方の心に火をつけなければならない。先生方が、「よし、やってみよう」と行動を起こすような110分間にしなければならない。

会場には、お世話になっている幼稚園の主任の先生にも来ていただけることになった。言語の習得能力値は、0歳から6歳がピークである。中学卒業時には半分以下になる。幼稚園時代が重要なのである。幼稚園の先生にも、リーディングスキルを知ってほしい。知っておいて損はない。

責任重大な110分間である。会場は、こむこむ館のわいわいホールである。行ったことがあるが、広い会場である。先生方とお会いできるのが楽しみである。自らこの講座を希望した先生方である。リーディングスキルの伝道師として、先生方の期待にぜひとも応えたい。そして、子どもたちのために自分の授業を改善していこうとする先生方のよき伴走者になりたい。